

五八三八（次行）\*

「入形理」

五八三九

五八四〇\*

五八四一

五八四二

五八四三\*

五八四四\*

五八四五

五八四六

五八四七

五八四八

五八四九

五八五〇

五八五一\*

五八五二\*

五八五三

五八五四

五八五五\*

蓋し物の没露は。體の虚實に由る。

體は形に由りて成る、

形は理に由りて成る、

理なる者は氣の道路なり、

形なる者は體の容貌なり、

氣運ばざれば則ち形成らず。

形見れざれば則ち物立たず。

體は氣物性體。全偏大小を有す。

性異なれば則ち物も異なり。

物異なれば則ち理も異なり。

理異なれば則ち形も異なり。

各氣は各理に隨う。

各理は各物に成る。是を以て

天地は止を以て主と爲す、圓は直を含む、

轉持は動を以て主と爲す、矩は規を成す、

靜に直圓と謂う、

動に規矩と謂う、

規に動西有り、氣は從いて運轉す、

（動を東に訂正傍記。）

五八七四  
 五八七三  
 五八七二  
 五八七一  
 五八七〇  
 五八六九  
 五八六八  
 五八六七  
 五八六六  
 五八六五  
 五八六四  
 五八六三  
 五八六二  
 五八六一  
 五八六〇  
 五八五九  
 五八五八  
 五八五七  
 五八五六

矩くに南北なんぼく有り、氣きは從したがいて噓こきゆうす、而しかして  
 圓えんは内外ないがいを成なし、氣きは此こに轉てん持じす、  
 直ちよくは上下じようげを有うし、氣きは此こに發はつ收しゆうす、  
 内外ないがいなる者ものは圓えんの位いなり、  
 上下じようげなる者ものは直ちよくの位いなり、  
 轉てん持じなる者ものは、氣きなり、轉てん位いは外そとを占しむ、  
 天地てんちなる者ものは、體たいなり、天てん位いは上うへを占しむ、  
 天てんは圓えんを以もつて形けいと爲なす、地位ちいは下したを占しむ、  
 地ちは直ちよくを以もつて理りと爲なす、  
 轉てんは規きを以もつて形けいと爲なす、  
 持じは矩くを以もつて理りと爲なす、  
 天てんなる者ものは動どうなり、  
 地ちなる者ものは止しなり、  
 天てんは動どうを以もつて運うん轉てんし東西とうせいを分わかつ、  
 地ちは止しを以もつて環かん守しゆし南北なんぼくを分わかつ、故ゆえに  
 天てんは運うん轉てんを以もつて動うごき、環かん守しゆを以もつて止とどま、  
 地ちは土ど石せきを以もつて止とどま、噓こきゆうを以もつて動うごく、  
 運うん轉てんは東西とうせいに在あり、  
 噓こきゆうは南北なんぼくに在あり、

(PB 403)

(I 442b)

五八七五

五八七六

五八七七

五八七八

五八七九

五八八〇

五八八一

五八八一 1 (復元)

五八八二

五八八三

五八八四

五八八五

五八八六

五八八七

五八八八

五八八九

五八九〇

五八九一

五八九二

天地は理を圓中の直に於て共にす。而して以て規矩を爲す。  
圓を以てして、而して氣は轉じて西に面す、

象は運して東に面す、  
直を以てして、而して雲は喩いて易は噓く、

南北は代がわる面す、是を以て

天氣は南に喩えば、則ち

天氣は北に發す、而して

其の用は半面に在り。

而して其の間は則ち水燥の遊ぶ所なり。

下より發して升る、

上より結んで下る、蓋し

地體なる者は止る、萬質は皆な親しんで此に著く、

天氣なる者は動く、萬象は皆な親しんで此に之く、

天を親しんで氣に之けば、則ち其の勢は輕を爲す、

地を親しんで質に著けば、則ち其の勢は重を爲す、此を以て

輕浮の勢、勝れば、則ち重と雖も沈むこと能わず、

重沈の勢、勝れば、則ち輕と雖も浮くこと能わず、

人造を以て之を言うに、彼の舟の如し。

虚は以て輕浮の氣を盛る。輕浮を盛るを以て、而して

- 五八九三\*
- 五八九四
- 五八九五
- 五八九六
- 五八九七
- 五八九八
- 五八九九
- 五九〇〇
- 五九〇一
- 五九〇二
- 五九〇三
- 五九〇四
- 五九〇五
- 五九〇六
- 五九〇七
- 五九〇八
- 五九〇九
- 五九一〇
- 五九一一
- 五九一二
- 五九一三
- 五九一四
- 五九一五
- 五九一六
- 五九一七
- 五九一八
- 五九一九
- 五九二〇
- 五九二一
- 五九二二
- 五九二三
- 五九二四
- 五九二五
- 五九二六
- 五九二七
- 五九二八
- 五九二九
- 五九三〇
- 五九三一
- 五九三二
- 五九三三
- 五九三四
- 五九三五
- 五九三六
- 五九三七
- 五九三八
- 五九三九
- 五九四〇
- 五九四一
- 五九四二
- 五九四三
- 五九四四
- 五九四五
- 五九四六
- 五九四七
- 五九四八
- 五九四九
- 五九五〇
- 五九五二
- 五九五三
- 五九五四
- 五九五五
- 五九五六
- 五九五七
- 五九五八
- 五五九六
- 五五九七
- 五五九八
- 五五九九
- 五六〇〇
- 五六〇一
- 五六〇二
- 五六〇三
- 五六〇四
- 五六〇五
- 五六〇六
- 五六〇七
- 五六〇八
- 五六〇九
- 五六一〇
- 五六一一
- 五六一二
- 五六一三
- 五六一四
- 五六一五
- 五六一六
- 五六一七
- 五六一八
- 五六一九
- 五六二〇
- 五六二一
- 五六二二
- 五六二三
- 五六二四
- 五六二五
- 五六二六
- 五六二七
- 五六二八
- 五六二九
- 五六三〇
- 五六三一
- 五六三二
- 五六三三
- 五六三四
- 五六三五
- 五六三六
- 五六三七
- 五六三八
- 五六三九
- 五六四〇
- 五六四一
- 五六四二
- 五六四三
- 五六四四
- 五六四五
- 五六四六
- 五六四七
- 五六四八
- 五六四九
- 五六五〇
- 五六五一
- 五六五二
- 五六五三
- 五六五四
- 五六五五
- 五六五六
- 五六五七
- 五六五八
- 五六五九
- 五六六〇
- 五六六一
- 五六六二
- 五六六三
- 五六六四
- 五六六五
- 五六六六
- 五六六七
- 五六六八
- 五六六九
- 五六七〇
- 五六七一
- 五六七二
- 五六七三
- 五六七四
- 五六七五
- 五六七六
- 五六七七
- 五六七八
- 五六七九
- 五六八〇
- 五六八一
- 五六八二
- 五六八三
- 五六八四
- 五六八五
- 五六八六
- 五六八七
- 五六八八
- 五六八九
- 五六九〇
- 五六九一
- 五六九二
- 五六九三
- 五六九四
- 五六九五
- 五六九六
- 五六九七
- 五六九八
- 五六九九
- 五六一〇〇

重沈も之が爲に擧げらる。而して浮くを得る。故に。

沈實の重は、其の輕に輪れば則ち沈まず、

輕浮の勢は、其の重に輪れば則ち浮かず

是を以て輕浮重沈の勢は。もと胡越に非ざるなり。

何となれば則ち今試みに氣中より繩を以て石を繋ぎて、而して

諸を下切の岸に下せば、

重は下に援きて、而して力は復た擧ぐ可からず、

又た試みに姑く身を水底に潜め、

空器に氣を盛り、

綸して諸を千尋の上上ぐれば、

輕は上に引きて、而して力は復た潜む可からず、

勢は反し。力は倅しく。事は殊にして意は同じ。

(編集による空白)

(安永本より復元)

蓋し

(PB 404)